

コロナ禍でのプレイボール・神奈川フューチャードリームス

2020年9月22日（火・祝）

神奈川フューチャードリームス VS 埼玉武蔵ヒートベアーズ 13:00開始
バッティングパレス相石スタジアムひらつか（平塚球場） 観衆297名 天候 曇りときどき小雨



↑テープで仕切られているスタンド



↑イースタンリーグでも使用される平塚球場

1、21ブロックに仕切られた座席

東京から60km、横浜からも30kmの通勤圏内にある平塚市、JR平塚駅から歩いて20分余り、湘南ベルマーレのホーム・BMWスタジアムと同じ敷地（平塚公園内）の平塚球場に到着します。向かう途中にはベルマーレの旗やポスターがあちこちで見られ、ベルマーレのホームタウンであることを改めて意識づけられます。

試合開始の3時間前の午前10時に控室に集合すると、紫色のビブスに着替え、出欠および検温、配置場所の発表が行われました。本日の活動者は14名で受付、グッズ販売、入場ゲート、スタンド全般の4班に分かれ、私は7名の方と一緒にスタンド全般の担当になりました。リーダーのFさんから平塚球場または他の球場での活動経験があるかを聞かれ交代休憩のローテーションが決まります。平塚球場での試合はコロナウイルス感染者が出た場合に備えて、スタンドはエリア分けをし、一塁ベース側から三塁ベース側付近まで、上段は使用せず更に21のブロックに分けるという徹底ぶりです。そのためAからUまで分かっている座席ブロックを全員で現場確認し、ラミネート看板を設置するところから始まりました。

2、簡単なようで難しいが病みつきになる？「笛吹き」

11時15分に開門となり、ゲート担当者が指定のブロックを聞いて「Fブロックですね。

もう少し三塁側にお進みください。三塁側の者のご案内いたします。」(三塁側配置担当者が)「こちらのテープが貼っているFブロックでお好きな場所でご観戦下さい。」とお客様をリレー的にご案内する方法です。また選手は開門前からすでに練習を開始しているので「ただいま、バッティング練習中です。ファールボールにはご注意ください。」と注意喚起もしなければなりません。

13時の試合開始後は交代でファールボール注意喚起の笛吹きを行ないます。笛吹きとは飛んできたボールが観客にぶつかりけがをさせない喚起のための笛を吹くことで、一度やってみたかったのですが、やってみると意外に難しかったです。私はホームベースと三塁ベースの間で行ったのですが、ぎりぎりのキャッチャーフライで笛を鳴らしてしまったり、よそ見をしていて鳴らし漏れていたり…と失敗続きでした。なお笛吹きとは言うもの笛を吹くのではなくブザーを鳴らします。また速球派投手はバックネット裏のファールが多く、軟投型投手は一塁、三塁側へのファールが多い、場外ファールの場合は場外の通行人でも聞こえるよう、大きく笛を鳴らさなければならないということをFさんから教えていただきました。

試合終了と同時にのぼり旗とラミネート看板を片付け、スタンドのゴミ拾い、のぼり旗とグッズなどの商品をトラックに運び、最後に数十分前まで使用していた選手ロッカーの消毒をして、試合終了1時間後の17時に終礼後解散となりました。(この試合は開始後2時間45分を超えたら次のイニングに入らないというルールがありました。)

3、コロナウイルスがなかったら

コロナウイルスの影響で直接のボランティア説明会も行なうことができず、見切り発車のような感じで船出した神奈川FDとボランティア。無観客試合のときも関係者受付やファールボールの球拾いなどのボランティアの活動はあるとのことでした。野球が盛んな地域ということもあってか130名もの登録があり、1試合平均10名程度が活動されていて「2年目以降も継続していただいて欲しい」「平日の活動者がなかなか集まらず苦戦している」とボランティア担当者から伺いました。他のBCリーグに比べて試合開始3時間前(平塚開催以外は2時間半前)から終了後1時間後までと活動拘束時間が短いのが特色で、設営に関する作業は球団職員が先に準備していると伺いました。

Bリーグの元クラブ営業社員や災害復興、J3相模原でのボランティア経験者や「たまたま近所だったので」とボランティアを始めた方など色々な経歴を持った方がいらっしゃいましたが、球団職員も含めて「一年目の不慣れさ」というのを全く感じませんでした。

もし、コロナウイルスの感染がなければ座席のブロック分けや選手ロッカーの消毒といった業務はなかったのではないかと思います。来シーズン以降どうなるか全く見通しがつきませんが、この非常事態にも関わらず順調な船出の神奈川FDの2年目にささやかながらエールを送りたいと思い、初秋の湘南・平塚をあとにいたしました。

4、NPBにはない「何か」を探す楽しみ

埼玉武蔵、栃木に続いて3試合目のBCリーグ、最初はNPBとの「格差」や「距離の近さ」にカルチャーショックを受けました。今回もまた新たな発見を見つけましたのでぜひご紹介させていただきます。

両チームの選手は私が球場に到着した試合開始3時間以上前からすでに練習をしていて、練習終了後のグラウンド内の球拾いも両チーム一緒に行なっていました。また試合開始時には選手がスタンドに向かって「応援よろしくお願いたします」と一礼をしていました。コーチがコーチーズボックスに入るとき相手ベンチに向かって挨拶されていたのも印象的でした。NPBにはない「ひたむきさ」「必死さ」はスタンドからも充分すぎるほど感じることができました。先日のスポボラサプリのトーク企画でルートインBCリーグの村山哲二代表が「BCリーグの選手は退団後の再就職先企業の求人が増えている」、といった旨のお話をされていましたが、その意味がわかった気がしました。ついでにお伝えすると神奈川FDの球団職員も教員や警察官からの「転職組」の方もいらっしゃるとのこと、とてもきびきびと動いていました。NPBにはない「何か」を探すのがBCリーグファンの楽しみ方かもしれません。皆さんもぜひBCリーグの試合をご覧くださいと思います。神奈川FDの皆さんありがとうございました。